本号の記事
〇第７４回全国大会（群馬大会）概要
〇全分科会の紹介
〇事務職員研修会
〇本部活動報告

2022

協会ニュース　増刊号

志賀草津道路（草津町）日本国道最高地点天空ロード
写真提供：群馬県実行委員会

令和４年５月１日発行

全国公立高等学校事務職員協会

http://zenjikyo.jimdo.com/

事務局：群馬県立館林女子高等学校

電　話：0276-72-0139

住所：群馬県館林市尾曳町 6-1

第74回　全国公立高等学校
事務職員研究大会
（群馬大会）IN高崎

１　期　日

（1）全国理事会　令和４年７月１日（金）		国立オリンピック記念青少年総合センター
		住所　東京都渋谷区代々木神宮３－１
（2）研究大会	７月２８日（木）～８月１７日（水）	オンデマンド開催
	・全体会	動画配信予定
	・第１分科会	〃
	・第２分科会	〃
	・第３分科会	〃

２　日　程

７月１日（金）	１３：００～１３：２０	会計監査
		議長団打合せ
	１３：３０～１５：００	常任理事会
	１５：２０～１６：４０	第１回全国理事会
７月２８日（木）～８月１７日（水）動画配信予定		開会式・表彰式
		文部科学省講話
		全体会（記念講演）
		第１・２・３分科会各研究発表
		基調講演・パネルディスカッション
		閉会式

第７４回全国公立高等学校事務職員研究大会　群馬県実行委員長　石橋　文行

第７３回愛知大会では、「“Heart” of JAPAN」をキャッチフレーズに開催準備を進めていただいておりました。しかし、「新型コロナウイルス感染症」という見えない困難が世界中でまん延し、１年の延期をせざるを得ない状況となってしまいました。その見えない困難を、オンデマンド方式という新しい方法で乗り切り開催してくださった愛知県実行委員会のみなさまに敬意を表します。ありがとうございました。

さて、第７４回全国公立高等学校事務職員研究大会（群馬大会）は、「行ってみんべぇー！～つる舞う形の群馬県～」をキャッチフレーズに、令和４年７月２８日（木）・２９日（金）に群馬県高崎市のＧメッセ群馬で参集型の開催を予定し、着々と準備を進めておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）が猛威を振るっており、みなさんの安全・安心が何よりと考え、残念ながら昨年同様オンデマンド型の開催にシフトすることとなりました。これから急ピッチで開催準備させていただきます。

ここで、群馬県の名物「上毛かるた」について、紹介させていただきます。「上毛かるた」は、毎年子供たちの県大会が行われ、群馬で生まれ育った人たちには浸透しており、読み札をほぼ暗記しております。その中の代表的な札を紹介します。キャッチフレーズにもあります「つる舞う形の群馬県」、これは群馬県の形が鶴が飛翔しているように見えることに由来しております。Ｇメッセ群馬の地元高崎市関連では、「縁起だるまの少林山」・「白衣観音慈悲の御手」、高崎市は、だるまの生産・白衣大観音様が有名です。県庁所在地前橋市関連では、「県都前橋生糸（いと）の町」、群馬県では養蚕が盛んでした。富岡市の富岡製糸場が世界遺産に認定されたことからも、おわかりになるかと思います。最後に、全国でも有名な草津温泉です。「草津よいとこ薬の温泉（いでゆ）」、草津温泉は某新聞社主催の「にっぽんの温泉１００選」では、１８年連続第１位です。また、某雑誌の「人気温泉地ランキング２０２２」では、箱根温泉を抑えて第１位となりました。「都道府県魅力度ランキング２０２１」第４４位とのギャップを、みなさん確かめてみてください。

最後になりますが、群馬大会は、従来型のみなさま参集しての開催を目指しておりましたが、オンデマンド型の開催に舵を切らざるを得ませんでした。「ようこそ群馬へ」とは言えなくなってしまいましたが、継続して開催していくことに意味があると思います。知恵を出し合い精一杯開催させていただきますので、ぜひ多くのみなさまの参加をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

全体会（記念講演）「意味のない会話の意味」

講　師　　小説家　絲山　秋子（いとやま　あきこ）氏

プロフィール　１９６６年　東京生まれ
大学卒業後、メーカー営業職として福岡、名古屋、高崎、大宮に赴任
２００３年　「イッツ・オンリー・トーク」で文學界新人賞を受賞
２００４年　「袋小路の男」で川端康成文学賞を受賞
２００５年　「海の仙人」で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞
２００６年　「沖で待つ」で芥川龍之介賞を受賞
２０１６年　「薄情」で谷崎潤一郎賞を受賞
２００５年より群馬県高崎市在住
最新刊は『まっとうな人生』（河出書房新社、２０２２年５月刊）

第１分科会　学校組織マネジメント　―学校経営への参画―

○　研究発表

（1）学校現場のクレーム対応

香川県立多度津高等学校　　事務部長　加地　　浩幸
香川県立香川西部養護学校　　主任　　村上　　香織
香川県立丸亀高等学校　　主任　　岸本　加奈子

学校の事務室で仕事をしていると、日々来客や電話での対応が発生します。中には「クレームでは？」と思うような事案に直面することがあります。そのような場面に直面した時、皆さんはどのように対処されていますか。

香川県ではクレーム対応が必要な場面に遭遇した時、各事務職員が持っている対応の経験や実績、また、それによって得られたスキル等を共有することにより、よりよい対応の方法が可能になるのではないかと考え研究しました。

（2）有害鳥獣対策について

千葉県立茂原高等学校　　主事　　田巻　　将貴

千葉県長生夷隅支部の学校にアライグマが侵入した事をきっかけに、近年増加している有害鳥獣による被害の有無と対策について、千葉県内の県立学校を対象にアンケートを実施しました。

結果の考察を基に、鳥獣保護管理法等による駆除の規制や、イノシシ、アライグマ、ハクビシン、カラス、ハチについて、特徴や被害対策等をまとめたものを発表します。

第２分科会　業務の改善と効率化　―実践と提案―

○　研究発表

（１）初心者の陥りやすい悩みにアドアイス　～わたし、元気が出てきました～

前　北海道中標津高等学校　　事務職員　泉谷　紗緒里

初任者であれ、初めての仕事に取り組む人であれ、初心者の時代は仕事に慣れず、様々な悩みを抱えるものです。それは、仕事の内容に限らず、同僚などからのかけられる様々な言葉によっても大きく左右されることがあります。本研究では、メンタルヘルスやコーチングの手法から職場環境を円滑にするための、より望ましいアドバイスや受け取り方について検討しました。

（２）県立学校における電力入札について　～神埼高校の新校舎移転をきっかけにして～

佐賀県立三養基高等学校　　主査　　松本　　一平
佐賀県立中原特別支援学校　　主事　　土井富　幸城

近年、教育現場に対する予算の減額措置が続く中、各学校現場においては様々な支出削減の工夫を行っています。特に佐賀県では、少子化に伴い、授業料収入が減少傾向にあり、学校管理運営費としての財源に影響が出る可能性があります。そこで、本研究では、今まで手を付けられることがなかった電力供給の入札導入について、新校舎移転を契機に、支出削減に対する取り組みの一つとして検討してみました。

（３）研修会等におけるＩＣＴ機器の活用について
～社会情勢を踏まえた研究大会の持ち方と今後の方向性～

京都府立朱雀高等学校　　主任　　片岸　　遊

京都府立学校事務職員協会においても、コロナ禍により例年どおりの参集型研究大会は開催できませんでした。その代わり、令和２年度は動画配信によって、令和３年度は動画配信と併せてオンラインによるパネルディスカッションをもって開催することができました。そこで、ＩＣＴ機器を活用した研究大会等の運営経験を踏まえ、それぞれの方法によるメリット・デメリットや課題等について比較・検討し、今後の大会等運営の方向性について研究しました。

第３分科会　今日的課題への提言　―多様な視点からの学校づくりを考える―

○　研究発表

（１）緊急事態発生！～知っておきたい初期対応～

茨城県立竜ヶ崎南高等学校　　主事　　石塚　　礼規

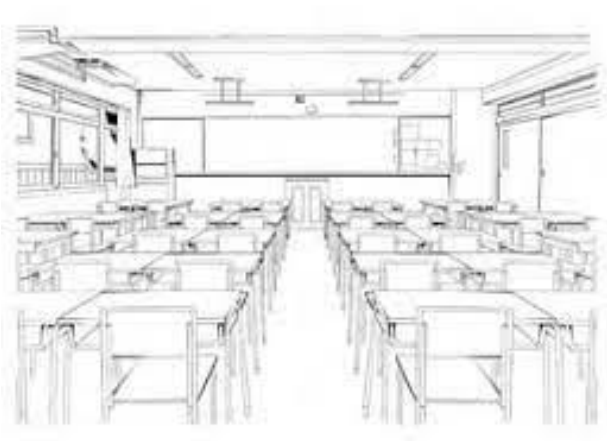
現在、所属の規模等によりばらつきはありますが、あまり多くない職員が学校に配置がされているのではないでしょうか。そのなかには新規採用者や会計年度職員など、経験が浅く、施設管理に携わったことのない職員がいるかと思います。

そんな職員のために、学校の施設に不具合が起きた時の簡単な初期対応について研究しました。

（２）空き教室の有効活用について

山形県立天童高等学校　　主事　　川又　　宥人

山形県内にあっては、近年の生徒数及び学級数の減少から、各校で空き教室が発生している状況にあります。今後の学校再編計画も考慮に入れながら、現在の空き教室の利用状況、また将来的な活用の在り方等を取りまとめました。



基調講演・パネルディスカッション

Ⅰ　基調講演

演　題　　「新しい時代に向けた組織の在り方と私たちの役割」
～個業型組織から協働型組織への転換～

講　師　　ＮＰＯ法人 茨城県経営品質協議会 理事　鬼澤 慎人 氏

Ⅱ　パネルディスカッション

テーマ　　「協働型組織に必要な事務職員の役割」
～「変える・見つける・つなげる」の３つの視点から～

パネリスト　基調講演講師　ＮＰＯ法人 茨城県経営品質協議会　理事　鬼澤　慎人 氏
茨城県立江戸崎総合高等学校　教頭　細矢　英三 氏
茨城県立石岡特別支援学校　係長　木村 仁妃子 氏
茨城県立水戸工業高等学校　主任　金沢　一樹 氏

○　問題提起

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」や新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の到来、DX 加速の必要性の高まりを社会背景に、令和３年１月に中央教育審議会答申が出された。この答申では２０２０年代を通じて実現をめざす、新しい時代を見据えた学校教育の姿が示されている。また、令和４年度から高等学校の新学習指導要領が年次進行で実施される。

これらを含めた近年の教育改革の背景には、学校が直面している諸課題の複雑化・多様化・困難化がある。その対応には学校が高い組織力を発揮することが必要不可欠であり、実現するためには、学校の特性として多く見られる個業型組織から脱却し協働型組織への転換、つまり組織マネジメントの強化が必要となってくる。このことを理解し、学校組織の一員として自校の経営ビジョンを達成するために、より広い視野を持ってリソースマネジャーとしての専門性を発揮することが、私たち事務職員に求められていることであり、それは今後の課題ともいえる。

そこで本分科会では、基調講演を通して組織の重要性、組織の在り方を理解するとともに、組織マネジメントにおいて「総務」「財務」職に求められる役割について考察する。更に、パネルディスカッションでは、まずは学校教育をめぐる社会の現状と課題を通して学校の組織力向上の必要性を明確にする。その上で、「学校」という組織の特性や課題を探りながら、新しい時代における「学校組織」の在り方を考察するとともに、組織力向上のために事務職員が果たすべき役割について討議する。基調講演・パネルディスカッションを通して、総務・財務の専門職として学校経営に効果的に参画していけるよう、参加者の意識を高める分科会とする。

○　討議の３本柱

１　「組織力の向上」の必要性
２　「学校」という組織の強みと弱み
３　これからの学校組織における事務職員が果たすべき役割

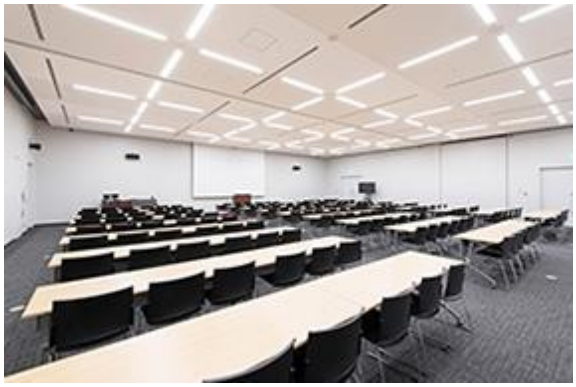
全国大会会場案内（参集型当初案）

外観（Ｇメッセ群馬）

第１分科会場（２Ｆ　メインホール）

第２分科会場（４Ｆ　大会議室）

第３分科会場（３Ｆ　中会議室 301）



事務職員研修会　「信頼の事務室づくり」～心理的安全性がチームを活性化させる～

講　師　　株式会社 総合教育コンサルティング　前田　京子　氏

令和４年１月１２日(水)に事務職員研修会が昨年度に引き続きＺｏｏｍを活用したオンライン研修で行われた。各協会から推薦された６２名の参加者は、午前は講師の講義を受講し、午後は Zoom 機能であるブレイクアウトルームを利用して１３のグループに分かれ、グループワーク形式の研修を行った。

講　義

１　講義目的　～「心理的安全性」確保の手法を学ぶ～
（1）心理的安全性への深い理解
（2）心理的安全性から学校に貢献する人材を育成
（3）チーム活性化から学校に貢献する人材を育成
（4）信頼の事務室づくり実現のヒント、具体策

２　内　容
（1）心理的安全性とは、組織やチーム全体の成果に向けた、率直な意見、素朴な質問、そして違和感の指摘がいつでも誰でも気兼ねなく言えること。
（2）心理的安全性への誤解とは、ヌルイ職場ということではない。ぬるま湯のような雰囲気にすれば心理的安全性を作れるというのは間違い。
（3）心理的安全性の４つの因子
①話しやすさ：話す、聴くという行動、何を言っても大丈夫
②助け合い　：助けを求める、助けるという行動、ひとりで完璧ではなく、困った時はお互いさま
③挑戦　　：挑戦する、歓迎する、機会を与える、機会をつかむという行動とりあえずやってみよう
④新奇歓迎　：個性を発揮する、適切な配置をするという行動、異能、どんとこい
（4）アサーティブコミュニケーションとは、好意の返報性好意を持ってくれる相手には好意を返したいと思う心理のこと。

グループ討議

１　役割　…　司会、書記、発表者、トリックスター
２　討議テーマ　…　各グループで決定する
（1）心理的安全性は本当に必要か
（2）私たちが仕事で本当にしたいこと
（3）心理的安全性をチームの文化にするために
（4）研修後私たちが取り組む２１日チャレンジ(仕組みづくりと行動)
３　代表グループが討議内容を発表し、全体共有する　《ブレイクアウトルーム》
参加者は、グループ討議開始とともに各ルームへ移動し、全国協会理事も助言者として各グループの討議に参加した。事前の模擬研修時に自己紹介をして役割を決めたため、討議開始からＺｏｏｍ機能のホワイトボードに討議内容を書き込みながら熱心な討議を行った。
４　質疑応答

まとめ

新型コロナウィルスウィルス感染拡大防止のため、今年度も従来の参集型研修からオンライン研修となったが、講義だけに留まらずグループ討議を行うことができた。オンライン研修は通信環境や研修時のコミュニケーションについて課題はあるが、全国の会員と直接、意見交換や情報交換をすることで新たな気づきを得られる研修方策の一つとして、今後の研修会を展望していきたい。

本部活動報告

●常任理事会（千葉・クリアビューゴルフクラブ＆ホテル及びリモート）
１月１４日　・第２回群馬大会合同打ち合わせについて
　　・令和４年度事務職員研修会について
●臨時常任理事会（リモート）
２月１４日　・全国大会（群馬大会）について
　　・令和４年度各部日程について
●常任理事会（小山台会館）
４月２２日　・令和４年度定期総会、第１回全国理事会・常任理事会について
　　・全国大会（群馬大会）について
　　・令和３年度決算及び令和４年度予算(案)について

編集後記

令和４年度の全国大会もオンデマンドによる開催と変更になりました。
これで２年連続オンデマンドによる開催となります。参集しての開催を進めていた群馬大会実行委員会としては苦渋の決断であり、参集をしての参加を希望する声も多かったことから残念でなりません。しかし、歩みを止めるわけにはいきません。今後、大会開催に向け急ピッチで諸準備が行われますが、その後も状況の変化に対応していかなければならないことも出てくるかと思います。「終わり良ければ全て良し」となるよう、皆さんの御協力をお願いいたします。(澤田)

○全国協会ＨＰアドレス　http://zenjikyo.jimdo.com/　　「全国公立事務」で 検　索 可能です。

○「協会ニュース」に関するお問い合わせは広報部編集担当まで

・茨城県立水海道第一高等学校／柴﨑
TEL：　0297-22-0029
FAX：　0297-22-5479
mail：　sibasaki.seiji@post.ibk.ed.jp
・群馬県立太田工業高等学校／澤田
TEL：　0276-45-4742
FAX：　0276-45-5158
mail：　sawad-kaz@pref.gunma.lg.jp
・群馬県立伊勢崎清明高等学校／舩津
TEL：　0270-25-5221
FAX：　0270-21-7763
mail：　f-mariko@pref.gunma.lg.jp